

令和7年度 学校評価アンケート（職員用）

番号	領域	評価の観点	評価項目	実践目標	自己評価者	評価		達成度	
						R7	R6	R7	R6
1	開かれた学校づくり		家庭や地域への情報発信	学校HPの定期的な更新、相高新聞・学年通信の発行等を通じて学校の情報を積極的に発信する。	全職員	3.4	3.6	86%	94%
2			学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	学校評議員会を定期的に実施し、そこで出た意見の周知とともに吟味検討し、学校運営に反映させる。	校運	3.6	3.1	100%	85%
3			地域や関係機関と連携した安全な学校づくり	地域や近隣の学校、関係諸機関との連携を密にし、生徒の安全や生徒指導の充実を図る。	全職員	2.2	3.2	86%	87%
4			育友会との連携	職員・PTAと合同の研修会、意見交換会などを行い、学校・家庭との連携をより密にする。	全職員	2.4	3.2	86%	84%
5			中学校関係者の本校理解の推進	オープンハイスクールの内容の改善や学校見学・中学校進路説明会・中学校訪問等を積極的に行う。	全職員	2.5	3.2	92%	84%
6	生徒指導		生徒指導方針の確認と指導体制の推進	指導方針の共通理解と、定期的に全職員で指導方針の達成状況、経過等の確認を行う。	全職員	2.0	3.2	81%	94%
7			生徒の内面の理解を図る指導の工夫	専門部だけでなく、学年との情報交換や共有を積極的に進め、学校全体の連携を強める。	全職員	2.4	3.3	89%	94%
8			生徒の内面の理解を図る指導の工夫	個人面談による生徒理解とともに、家庭と密接な連携を図り、必要により家庭訪問の実施やキャンパスカウンセラーによるカウンセリングを提案する。	全職員	2.7	3.3	86%	90%
9			生徒の内面の理解を図る指導の工夫	キャンパスカウンセラー等による職員研修(カウンセリング研修)を実施し、事例研究などとおして生徒の内面理解を図る指導法の共有及びカウンセリングマインドの育成に努める。	全職員	2.6	3.2	83%	87%
10			生徒の自主・自律の精神を育む指導の工夫	生徒に自主的に課題を設定させ、規範意識とマナーアップのために指導助言を行う。	全職員	1.7	3.0	75%	74%
11			地域清掃など体験活動をとおして、自ら考え、行動する力を育成する。	全職員	2.5	3.2	85%	87%	
12	学校運営	進路指導	進路指導体制の充実	三年間の進路指導計画を作成し、組織的・継続的に指導を実施する。	進路, 学年	2.0	3.0	73%	81%
13			進路指導	前年度の進路状況・結果について進路指導部と学年が連携し分析・対策を検討する。	進路, 学年	2.4	3.2	75%	90%
14			職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	総合的な学習の時間等を活用して、生徒の早期に自分の将来を見据えた進路選択能力を養う。	進路, 学年, 総合担当者	2.5	3.1	76%	82%
15			職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	外部講師等による進路講演会を開催し、生徒の職業観・勤労観を高める。	進路, 学年	2.8	3.2	73%	95%
16			主体的な進路選択能力の育成	ホームルームや総合的な学習の時間等で生徒に自らの生き方あり方を多方面から考えるよう指導する。	進路, 学年, 総合担当者	2.3	3.2	81%	86%
17			個々の生徒の進路希望に対応した進路指導の充実	個々の生徒の進路希望に対して適切な情報提供と指導・相談を行う。	進路, 学年	2.8	3.2	80%	90%
18	教職員の資質向上		実践的指導力の向上	各教科で公開授業・研究授業を積極的に取り入れ、指導力の向上を図る。	全職員	2.4	2.9	78%	68%
19			計画性を持った研修の実施	校内研修を計画的に立案し、教員に学校の諸問題に対応できる力を付ける。	全職員	1.9	2.7	64%	58%
20			社会の変化に対応した教育観の育成	外部講師やPTAの協力を得て、研修会を開き、社会の変化を理解し、それに応じて指導を改善する。	全職員	1.9	2.8	67%	61%
21			教職員の協働体制の確立	学校教育目標の共通理解を図り、教職員が協力し機動的な組織を構築する。	全職員	1.7	2.8	78%	71%
22	危機管理体制の整備		実効ある学校マニュアルの策定	定期的に危機管理マニュアルの見直しを行い、周知徹底を図る。	全職員	1.7	2.8	67%	68%
23			家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	家庭・地域・関係機関との連携し、実情に応じた危機管理体制づくりを進める。	全職員	1.9	2.8	72%	68%

番号	領域	評価の観点	評価項目	実践目標	自己評価者	評価		達成度	
						R7	R6	R7	R6
24	学校運営	危機管理体制の整備	生徒に対する防災教育の充実	定期的な訓練により、危機的事態への対応の仕方を理解させる。	全職員	1.9	3.2	79%	90%
25			教員の実践的な研修・訓練	危機管理マニュアルに基づく危機への対応や生徒の心のケアについて研修を行う。	全職員	1.8	2.7	56%	61%
26		学校組織の活性化	学年・学級経営	学年・学級の具体的な経営方針を立て、教育目標の達成に向けて努力する。	学年	2.2	3.5	75%	95%
27			校務分掌	各分掌における重点目標を年度当初に設定し、適宜、取組について評価と見直しを行う。	全職員	2.3	3.1	71%	81%
28	教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	体験的な学習を推進するとともに、総合的な学習の時間や教科の中で、問題解決的な学習を実施する。	全職員	2.1	3.0	71%	84%
29			特色ある教育課程の編成	自然科学コースや進路希望に応じた類型の年間指導計画を明確にする。	全職員	2.1	3.0	76%	81%
30		基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価規準の設定	各種データの適切な活用により生徒の学力を把握し、各教科で評価規準の設定とそれに基づいた評価方法の確立をめざす。	全職員	2.3	3.0	77%	84%
31			学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	各教科専門部会や県立教育研修所の講座に参加する等、指導力を高め魅力的な授業づくりの工夫をする。	全職員	2.7	2.8	69%	74%
32		個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	個人の成績の推移を担任や教科担当が容易に把握できるようにし、個別指導に活かすと共に、多様な評価方法を工夫する。	全職員	2.1	3.0	76%	84%
33			指導形態の工夫	習熟度別学習や少人数指導を実施し、個に応じた指導を行う。	全職員	3.1	3.3	81%	94%
34		特別活動	自主的・実践的な活動の活性化	部活動の活性化や生徒の主体的な生徒会活動を推進する。	全職員	2.9	3.2	83%	90%
35			学校行事の精選と行事内容の充実	学校行事検討委員会を定期的に開催し、行事の精選や内容の充実を図る。	全職員	2.2	3.0	82%	81%
36			ボランティア活動	地域ボランティア活動への積極的参加を生徒会を中心に実施する。	指導部	3.1	3.3	75%	93%
37		健康教育	計画的な体育・スポーツ活動の実施	体育大会や球技大会の実施後に職員・生徒のアンケートを行い、その結果を次回に反映させる。	全職員	2.9	3.3	84%	87%
38	生涯にわたる豊かなスポーツライフ及び健康増進の基礎を培う指導の工夫		保健体育等の授業や学校行事、HR活動、部活動等を通して生涯にわたる活力ある生活を支える体力や技術を高めるよう指導する。	全職員	2.6	3.3	89%	94%	
39	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	防災訓練・救急救命講習によって、学校や生徒の安全を守る知識や技術を全職員が学習する。	全職員	2.1	3.2	74%	87%	
40		実践的な安全教育への取組	保健体育の授業や部活動、HRの中で救急救命法や熱中症等について扱い、生徒の自己管理の意識や生命尊重の意識を高める。	全職員	2.1	3.2	76%	87%	
41	人権教育	人権教育推進体制への取組	三年間を見通した系統だった人権学習を計画し、それに基づき充実した活動を実施する。	委員会・学年	2.0	3.0	48%	75%	
42		確かな人権意識の育成	人権標語や人権作文の取り組みを通して、生徒の人権問題に対する意識を高め、人権尊重の態度を育てる。	全職員	2.0	3.1	85%	84%	
43	課題教育	情報教育	情報活用能力の育成	教科「情報」を中心に、生徒に情報機器の適切な取り扱いと、情報ネットワークの活用法を身につけさせる。	教科担当・学年	1.8	3.1	69%	91%
44			情報モラルの育成	生徒に情報通信技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報発信に伴う責任など情報モラルを育成する。	全職員	2.1	3.1	74%	87%
45			情報機器や情報通信ネットワークの活用	情報機器や大型TV、情報通信ネットワークを活用した授業などの工夫を行う。	全職員	2.8	3.2	72%	87%
46	国際理解教育	他国の歴史や文化の理解	外部講師を招いての講演・講義の実施や、国際交流研修等を行い、また、その成果を発表することにより、異文化理解をより推進する。	全職員	2.3	3.0	82%	81%	
47	体験活動	体験活動の推進	高校生ふるさと貢献事業等の年間計画に基づき、生徒の発想や主体性を活かした体験活動を推進する。	全職員	2.3	2.9	65%	74%	
48	環境・福祉教育	福祉体験活動等の推進と実践	車椅子体験などを通して、福祉問題を身近な問題としてとらえるとともに福祉への理解や積極的な活動を推進する。	全職員	2.0	3.1	88%	81%	
49		環境教育の推進と実践	ゴミ・リサイクル・省エネルギーなどの関心を高め、よりよい環境を作る実践力を育成する。	全職員	2.1	2.9	65%	77%	